

【日本聖公会宣教150周年記念礼拝】 明09年は、日本で聖公会の宣教が開始されて150周年の記念の年に当たります。06年に開かれた日本聖公会総会決議により、記念感謝大礼拝へ向けた準備が進められてきた。実行委員長植田仁太郎主教(東京)のもと、すでに日程や会場なども発表され、参加や募金の呼び掛けもなされている。礼拝日程

09年9月23日(水・休)、会場
 東京・香蘭女学校、テーマ
 「レズ」こぎ出せ、沖へ(日本
 に聖公会の信仰の種がまかれて
 150年。今、ふたたび、とも

08 フェスティバル 《あなたとともに》GO!
 9月23日(火・休) 10時半・立教女学院(雨天決行)

にこぎ出そう、主に身をゆだねて。募金目標1千万円(第1期間09月9月末、第2期09月4月6月、使途09小冊子刊行その他)。

▽立教大学レクチャーコンサート《聖書の人物に出会う》ナオミとルツ 同大学の教会音楽研究所・チャプレン室共催。9月26日(金) 17時~18時20分、池袋キャンパス立教学院諸聖徒礼拝堂。レクチャー09上田亜樹子チャプレンのほかパークション、オルガン、聖歌隊などが出演。入場無料。照会03(3985)2786。

《今、この教会では…》

葛飾茨十字教会

われらの教会はどちらかと言うと少数の集いではあるけれど、最近聖婚式をなさったカップルまた小さなお子様の声も聞こえ、私のような老いた夫妻も力を与えられ感謝の礼拝、聖餐を戴いて足取りも軽く帰宅します。

一日一日を神様に見護られて生きています!!ことを実感させられ、夜寝るまえには「主の祈り」を唱えるように心掛けています(時々忘れますが)。

「後期高齢者」と言う言葉も気になりません。当然残る人生は少ないのですから、ひたすら神様にお祈りです。

(山田藤市)

【学びと働きから】⁸⁴

工教区・東京教区の女性を中心とする協議会を終えて

両教区の女性を中心とする協議会は8月16日~20日、アンマンで開催され、日本から17人、エルサレム教区側からは約25人の参加で成功のうちに無事に終えることができました。最終日の評価会で、パレスチナ側の出席者が生き生きと、「参加してよかった、私たち女性が主体的に作り上げることができた協議会だった、新しい聖書の読み方を知った、同じ教区でも普段直接会うことができない人たちと出会うことができた、文化の違いを知り、お互いの交流を通して強められた…」などと口々に言うのを聞きながら、思わず涙

が出そうになりました。

思えば、準備してきた2年余りの日々、私たちがやろうとしていることにどんな意味があるのだろうか、ほんとに彼等が望んでいることだろうかと真剣に討議しました。そして、長いフライトの後、アンマンについて初日は、こちらの意気込みとかなかなか噛み合わず、どうなるかと不安もよぎりました。あとで分かったことですが、時間のやりくりさえできれば、一堂に会して準備できた東京側と違い、イスラエルによって五つの国に分断されたエルサレム教区の人たちが内容を話し合えたのは、アンマンに到着してからだったのです。事前にメールで綿密に打ち合わせていたはずなのに、

パレスチナ側のプログラムは毎日、変更続きでした。でも、それは毎晩遅くまでバルコニーで出会えた同胞と語り合いながら、日本側の意図も汲んで、変更されていったのでしょうか。

日本側の参加者も一人一人が発題や聖書研究ばかりでなく、いろいろな場で大活躍。尺八や踊り、歌に、風呂敷で作るいろいろな小物の披露など、隠れた才能を発揮して下さいました。

帰ってきた今でも、参加者一人一人の名前と顔が浮かびます。これを手掛かりに両教区の関係をこれからどのように発展させていけるのか、今後も考えていきたいと思えます。

梶山 順子

(聖マーガレット教会)